

学位論文要旨

学位授与申請者

陳 譽云 印

題目：日本統治時代から現代に至る台湾の竹具・竹産業に関する研究

本研究は、豊かな竹資源を有する台湾の竹具・竹産業について考察するものである。日本統治時代において、大規模竹材製紙業の模索、竹細工生産の推移、竹材工藝傳習所の設置など、多くの殖産興業政策が講じられ、竹がその時代の重要な産業的・経済的価値を有していたことを明らかにした。また、戦後からの近代化過程において、竹具・竹産業がいかに位置付けられ、変容してきたか、さらに、現代の地域社会でどのように伝統的竹具が作られ使われてきたかを明らかにした。加えて、台湾の通過儀礼や年中行事など非日常の場において、竹具の象徴的・精神的価値がいまも息づいていることを確認した。

第1章 序論

本章では、中国の文人蘇軾の詩を引用して、精神的象徴としての竹、生活に不可欠な素材としての竹の価値を示し、その多様な竹具の利活用について例示した。また、関連する既往研究との比較から、本研究が台湾の竹具・竹素材を対象として、生活文化、生活技術、精神文化的視点から考察し、さらに、日治時代から現代に至る近代化過程における竹産業の動態にまで言及した点で、その独自性を明らかにした。加えて、台湾における竹の植物学的、地理学的な特質について概説した。

第2章 台湾・南投県竹山地域における伝統的竹具の再評価

本章では、かつて生活用具の素材として多用されてきた竹が、産業技術や生活様式の近代化の中で他素材に代替されつつある現代において、伝統的竹具に焦点を当て、その素材のもつ特質をいかに見極めながら生活用具や家具、建築材料等に生かし利用されてきたかを、生活文化的・道具学的側面から検討した。

調査対象地域は、標高の違う大鞍里、田子里を含めて6集落とし、現地調査を通して79種114点の竹具を採集し、竹具の使用方法、制作方法、竹素材の選び方等について調査した。その結果、それらの地域における竹具や竹具づくりに内包される伝統的生活文化・生活技術の特質として、例えば、籠篋（ランボウ、蒸し器）の構造において、上部・底部の巻き縁には曲げに強い桂竹が、胴部には強靱な刺竹が、底の「力竹」には孟宗竹が使用されるなど、竹具の制作方法や使用条件に応じて竹の種類が選択されてきた「適材適用」、籠篋や火籠（ホエ

ラン、手提げ暖房具)にみる二重構造の複雑さや、切る・割る・剥ぐ・曲げる・編む・よじる等の技法を巧みに組み込んだ竹細工の高度な「手技の探求」、籐仔(ガンマ、箆)、畚箕(ブンギー、箕)、竹筍簍(ツースンロウ、籠)など、標高に対応した竹素材の利用にみる「地産地消」、さらに、竹のすべての部位を余すところなく使い尽くす「一物全体活用」などを導出することができた。すなわち、当該地域における竹と生活文化・生活技術の関わりにおいて、自然や風土に働きかけ、合理的で最適な竹素材の利活用方法を求めるものづくりの理念を明らかにすることができた。

第3章 日本統治時代の台湾における竹資源の産業的価値

本章では、竹資源に関連する日本統治時代の台湾総督府史料・研究報告・関連記事・書籍等を通して、当時の台湾にとって重要な自然資源であった竹に着目し、竹具・竹産業政策の実態を考察し、日治時代における竹の産業的価値について検討した。

具体的には、その時代の政府の政策について、竹材産出量や竹産物生産額などの資料から竹資源の産業的位置付けを行い、また、大規模竹材製紙業の模索、竹細工生産の推移、竹材工藝傳習所の設置、副業と造林政策、代用品としての竹などについて検討した。その結果、農村の副業手段、竹製バナナ籠としての需要、竹工芸技術、製紙材、鉄筋材の代用としての利用など、日治時代における台湾の発展に関わる竹の産業的価値について明らかにした。

加えて、日治時代における台湾の経済的発展の背景としては、台湾の中期統治政策上の主張であった本土と同様の制度を植民地である台湾に適用する「内地延長主義」の考えが作用してきたことが挙げられ、その発展過程において、竹の産業的価値が一定の役割を果たしてきたことが確認された。

第4章 台湾の戦後における竹具・竹産業の変容

本章では、台湾における戦後の竹産業の実態を把握するために、その前提となる社会環境的要因としての台湾経済の発展過程について概観し、特にプラスチック産業の勃興・発展経緯やそれがもたらした竹産業への影響、輸出用の竹製バナナ籠生産の推移などを検討し、戦後台湾の殖産興業政策ならびに経済発展の影響下における竹産業の変容について明らかにした。

また、台湾に於いて儀礼・祭礼に用いられてきた竹具の利用実態を調査し、竹が機能的側面のみならず精神的側面からも人びとの生活世界を支える重要な役割を担ってきたことを明らかにした。すなわち、竹が有する象徴的・精神的価値は、古代から現代に至っても、とりわけ台湾の非日常の生活場面において継承され利用されてきたことを確認した。

第5章 結論

本章では、これまでの研究の内容を要約して総括とした。また、それらを踏まえて、今後の研究の課題を示した。

